

群馬県における「焼町類型」の位置 異系統土器共存の一視角

The Location of the Yakemachi-type Pottery in Gunma Prefecture

山口逸弘

はじめに

- ①群馬県中期土器の組成「焼町類型」を中心として
- ②川原田遺跡の主体的土器組成と群馬県西部の「焼町類型」
- ③「焼町類型」の立場と役割

まとめ

【論文要旨】

本稿は、「焼町類型」が提示する様々な課題のうち、群馬県における「焼町類型」の時間的な位置及び共伴する異系統土器群内部での位置を探るものである。

まず、群馬県における「焼町類型」を遺構内で共伴する異系統土器群の様相から2段階の区分で概観した。その結果、第1段階の組成の在り方は、勝坂式や東関東系の土器、北陸系の土器、阿玉台式との共伴が見られ、共伴する各異系統土器群の個性が反映した組成を見た。第2段階では、「勝坂系」や「三原田型深鉢」との共伴が顕著で、この在地的な土器群が、次代の加曽利EⅠ式的文様構成へ収斂化する様相を示すに対し、「焼町類型」はその曲隆線施文手法を保持し、体部主幹文様施文を継承することから、継続する安定型異系統土器群としての位置付けが可能になった。

さらに両段階を通して、群馬県の「焼町類型」は共伴する異系統土器群の組成にあって、客的な存在形態を示し、長野県御代田町川原田遺跡に見るような「焼町類型」主体の組成様相を示しておらず、群馬県の「焼町類型」は異系統土器群の中に少数が嵌入する限られた上器群と観察された。

次に「焼町類型」の役割を考え、互酬行為を背景にした相互の土器交換財としての可能性を探った。異系統土器文化圏への搬入に際し、相手先にある複数の土器型式間を繋ぐ土器として選択された土器と考えた。さらに、その際の贈与行為の物質として、周辺の土器群内で伝統的かつ際立つ施文技術を持つ「焼町類型」がその役割を果たすものと考えた。